

第 512 回友の会講演会 質問と回答

第 512 回友の会講演会（5/1 開催）はオンライン配信限定で開催いたしました。
参加者からの質問と講師からの回答を、以下のとおり公開いたします。

（2021/06/01）

■ 質問者 A 様

私は 10 年前英国ロンドン東部インディアン地区でインド文化芸術団体との接触があり、ここでは芸術鑑賞組織もあり、日本の伝統芸能の公演を主催して貰ったことがあります。そこで共演もしましたがハルモニウムが主役でした。数年前民博研修の旅でインドラジャスタンにおける祭りに遭遇した時の興奮は今も強烈に残っております。インドは「詩の国・唄の国」の宝庫といわれ、特にその地域しかない祭りや民族芸能にあふれていることと思えます。民族音楽を奏でる楽器群の全体図式の中でハルモニウムは中心的な役割にあるのでしょうか？ハルモニウムと新しい音楽と結びつける創造を目指すのでしょうか？これまで漠然としていた異文化受容のメカニズムがわかり我が国の伝統芸能を語る上での参考になりました。

<講師回答>

国立民族学博物館の岡田でございます。

この度は、講演会のご視聴ならびにご感想・ご質問をお寄せくださり、感謝申し上げます。

以前に、ロンドンのインド文化芸術団体と文化交流されたご経験をお持ちとのこと、興味深く拝読致しました。ロンドン東部はインド系移民が多く住む地域で、わたくしも以前に調査で訪れ、まるでインドの街に降り立ったかのような感覚で驚いたのを記憶しております。移民社会の 3 世、4 世以降も、インドの古典音楽や古典舞踊を子どもたちに学ばせ、インドという地を離れても脈々とインド文化が継承されているのをその際に目の当たりにしました。

さて、ハルモニウムに関する第一のご質問「民族音楽を奏でる楽器群の全体図式の中でハルモニウムは中心的な役割にあるのでしょうか？」に関しまして、回答致します。

インドでのハルモニウムは、講演会の中でもお話ししました通り、インドの音楽様式や演奏スタイルに沿うようにインド独自の楽器改良が進められ、「声楽の伴奏楽器」として、北インドの古典音楽や軽古典音楽のみならず、ヒンドゥー教やシク教の宗教歌謡でも幅広く使用され、インド音楽文化には不可欠な楽器となっております。一方で、「ソロ楽器」としては、未だハルモニウムのソロの奏者はそれほど多くはありませんが、講演会の中でもご紹介した、ムハマド・ドゥルプリ氏や、若手のソロ・ハルモニウム奏者も年々登場しております。

以下は、以前にコルカタでハルモニウム製作工房や演奏者を中心に調査を実施し、映像にまとめたもので、若手のソロ・ハルモニウム奏者のインタビューや演奏の場面も登場致しますので、もし宜しければ、ご覧頂けましたら幸いです。

「コルカタのハルモニウム産業にみる都市性 Harmonium in Kolkata」

<https://www.youtube.com/watch?v=CttDo2fZlvk>

次に、ハルモニウムに関する第二のご質問「ハルモニウムと新しい音楽と結びつける創造を目指すのでしょうか？」に関しまして、回答致します。現在、ハルモニウム奏者は、第一に声楽の伴奏者、第二に北インド古典音楽のソロ・ハルモニウム奏者のいずれかになります。過去には、ガン・プラカーシュ・ゴーシュという音楽家・作曲家がおり、彼はハルモニウム論争でも採用側意見を主張してハルモニウムの地位向上に貢献した人物ですが、彼自身のハルモニウム演奏をピアノ奏者とコラボレーションするなど、古典音楽に留まらない新たな様式にも挑戦しています。

重ねてご感想・ご質問をお寄せ頂き、心より御礼申し上げます。

まだこのコロナ禍が続きそうですが、どうかご自愛してお過ごしください。

岡田 恵美 拝